

令和4年度 中学部 新「風のつばさはばたき大作戦」 ～中学部キャリア教育3か年計画～

【作戦1】 社会生活の基礎的な力の育成を目指した職業教育		【作戦2】 一貫性・系統性のある作業学習の指導に向けて	
【作業学習】 身近な人材・地域資源を利用した活動、達成感や感謝される喜びにつながる活動 <農耕班> 山内いものこ、じゃがいも、さつまいも (R4 農園芸班) 花壇の整備、秋田ふるさと村のあさがおプランターの植え付け、種とり、かまくらろうそくの製作	連携する地域資源<技術指導、納品等> 高等部とのつながり ・山内地域の方々（松本さん） ・むつみ造園、秋田ふるさと村 ・高等部農耕班・校内実習の見学	<生徒> ・「なりたい自分シート」の作成（なりたい自分に近づくために必要な目標を立て、評価を年2回行う。） ・働く力の基となる知識・技能の習得のため、3年間でできるだけ複数の作業班を体験する。 ・高等部の作業学習を見学し、高等部生から働くために必要な力を学ぶ。	<教師> ・小单元化や作業工程の工夫を行い、短いスパンで繰り返すことができるゴールが明確な単元・作業内容を計画、実施する。 ・高等部と作業学習のねらい等について作業学習担当者等で検討する。（作業学習全体計画、中学部作業学習年間計画の作成） ・校内の実習助手や教科等指導支援職員との連携（技術面、デザイン等のアドバイス） ・中学校特別支援学級に交流及び共同学習についての情報提供をする。 ・教育相談時の作業学習体験（主に小学校特別支援学級6年生）
<木工班> かまくらコースター（かまくらをモチーフにした焼き印を押印、デザイン改良） (R4 クラフト班) スマートフォンスピーカー	・田畑製材所（材料購入、製品のアドバイス） ・高等部木工班、リサイクル班、校内実習の見学 ・ウッディさんない（技術指導）	作業学習製品意見交換会（全校職員対象：夏季休業中） 中学部・高等部作業学習情報交換会「風のつばさレポート」	
<手工芸班> カレンダー（紙すき） (R4 クラフト班)	・教科等指導支援職員との連携 ・十文字和紙（R5）		
販売会の計画（道の駅十文字、イオンスーパーセンター横手南店、学校祭）	・販売機会の検討（保護者、地域の方など） ・委託販売の検討		

【作戦3】 ～ 地域社会を学習の場とした学習活動の展開<知る、伝える、喜んでもらう> 職業生活への関心 ～		
【生活単元学習】 地域とかかわる <1年生> 自分が生活している地域やそこでの出来事に興味関心をもち、調べ方やまとめ方を知る。 <2年生> 友達や自分が生活している地域やそこでの出来事に興味関心を高め、分かりやすく伝える方法を考えたり、まとめたりする。 <3年生> 地域の特産物を題材にしたり、地域の専門家を活用したりして横手市のよさをまとめ、表現方法を工夫して他校や地域の方などに発表する。 【知る】 自分の経験や身近な人からの情報を得る→身近な人や図書資料、ネットからの情報を整理する→専門家や図書資料、ネットからの情報を整理、比較する 【伝える手段】 相手に応じて絵や写真、言語以外の情報を加える→相手や目的に応じて表現手段を選択する	【職業・家庭科】 将来の家庭生活（衣食住）、職業生活への関心 <1年生> ・自分の成長や、家庭生活の大切さに気付く。 ・働くことに関心をもち、働く目的を知る。意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割（係活動、委員会活動など）に気付く。 【自分のことを知ろう、家庭の仕事と役割、整理整頓、健康な生活、いろいろな職業（家族の職業、校内で働く人）】 <2年生> ・職業にかかわる事柄や家庭の中での役割について考えたり、体験したりすることを通して身に付けることができるようにする。 【衣服、食事、快適な住まい方、家族の役割、いろいろな職業】 <3年生> ・職業や進路にかかわる事柄や家庭生活での役割について考えを深めたり、体験したりすることを通して身に付けることができるようにする。 【衣服、食事、消費生活、先輩（高等部生）にインタビュー、職場見学（地域で働く人たち）】 事業所見学の計画<さくらんぼ農園、NPO 法人そら、イオ・グランデ条里など>	【総合的な学習の時間】 地域交流と地域行事への参加 ・花植え交流会（秋田ふるさと村、むつみ造園、横手北中学校福祉委員会、太陽の園） ・クリーンアップ活動（年2回程度 横手公園、横手市役所周辺） ・かまくらおもてなし（かまくら職人、地域ボランティアなど） ・県南特別支援学校との交流（年2回程度）

今後の作業学習の展望 3か年計画

< 1年目 > R3	< 2年目 > R4	< 3年目 > R5
<農耕班> 芋の子を芽出しから栽培する 学校花壇を活用し、花卉の栽培方法を学ぶ	→ <農園芸班に名称変更> 芋の子の栽培方法を定着させ、栽培を安定化させる。 → 継続	→ 山内いものこを通じた地域と関わる活動の充実 → 継続
<木工班> かまくらコースター、かまくらマグネットフック、鍋敷き製作（継続） 現製品について職員、保護者からアドバイスをもらい、新製品に生かす <手工芸班> 高等部との作業学習製品意見交換 新製品の開発、メモ帳の製品改良	→ <クラフト班に名称変更> アドバイスをもとに製品を改良 職員が新製品について検討し、製品開発 販売活動を通じて、客からのアドバイス等を参考にし、製品改良につなげる（販売の際にアンケートを付ける）。	→ 新製品【間接照明（紙すき+かまくら+木工+電気）】 木工機械の使用 → 製品の質の向上、販売機会の拡大
<成果> ・地域資源の活用し、体験学習をとおして、働くことのよさ、横手のよさを学んだ。 ・新製品の開発、環境整備で意欲が増し、進んで取り組む姿につながった。		
<課題> ・生徒主体で活動、試行錯誤する場面が不足していた。 ・製品の改善や開発に必要な地域資源の検討が必要だった。 ・製品に対する客観的な評価を得て改善に生かすための製品アンケートが実施できなかった。		